

## 本会記事

### 新粉末冶金入門講座

第25回の「新粉末冶金入門講座」は、既にご案内の通り11月30日（木）、12月1日（金）の2日間京都産業大学むすびわざ館において開催されます。本講座は1993年にスタートし、ほぼ毎回多くの参加者を得て開催しておりますが、本講座のルーツは1969年にスタートした「粉末冶金入門講座」にあります。今回は、「粉末冶金入門講座」のスタートから現在の「新粉末冶金入門講座」に至る歴史についてご紹介します。

「粉末冶金入門講座」は1969年にスタートしておりますので48年前になります。この講座は、その趣旨からして新人の方を対象とした内容ですので、当初受講された方々はほぼ100パーセント退職されていることと思われます。

1969年開催の「第1回粉末冶金入門講座」は若林章治先生（早稲田大学）が講師となり、「粉末冶金製品の展望」と題して講義されました。内容としては、1.粉末冶金発達の歴史に始まり、2.金属粉末、3.粉末冶金製品（機械部品、多孔質部品、摩耗材料、超硬合金、電気材料、磁気材料、高温材料、原子炉、宇宙材料）と多岐にわたる内容でした。この第1回は、若林先生一人が講師として話をされましたが、翌年の第2回からは、複数の講師による講演が行われました。第2回の講座のテーマと講師は次の通りです。

- 1.粉末冶金とは（中西典彦）
- 2.金属粉（田村皖司）
- 3.粉末冶金製品はどのようにして作られるか（川北宇夫）
- 4.粉末冶金製品の性質について（湯河透）
- 5.粉末冶金応用製品①焼結機械部品（渡辺悦尚）②超硬合金（深津保）③複合材料（土方俊三）④高融点金属・電気材料（的場敏夫）

「粉末冶金入門講座」は、以降ほぼ同様の内容で1978年の第10回まで開催されました。第10回で取り止めになった理由は、徐々に参加者が少なくなったことにあります。この講座は、6月～9月の間に開催されており、開催時期が変動したため企業の新人教育として安定した予定が立てられなかったことも大きな原因であったと思われます。

その後数年間、粉末冶金に関する講座、セミナーは開催されていませんでしたが、会員からの要望があり「最新の粉末冶金技術講座」として1983年にスタートしました。この講座は、入門講座に比べ、さらに粉末冶金に関する技術や材料について最新の情報を紹介するものでした。1983年7月に開催された「第1回最新の粉末冶金技術講座」のテーマと講師は次の通りです。

- 1.粉末製造技術と粉末特性（森岡恭昭）
- 2.機械部品の設計製造（早坂忠郎）
- 3.CIP, HIP技術（河合伸恭）
- 4.焼結構造材料（黒石農士）
- 5.焼結電気材料（庄司啓一郎）
- 6.超硬合金（鈴木寿）
- 7.形状記憶合金（中西典彦）

本内容を第1回として開始された「最新の粉末冶金技術講座」は、当初は粉末冶金入門講座をベースにした内容となっていました。その後、粉末冶金関連分野での時々の最新情報を提供するという形で実施されました。この講座は、開催月として7月～10月の間で行われ1992年の第10回まで続けられました。因みに、「第10回最新の粉末冶金技術講座」のテーマと講師は次の通りです。

- 1.金型内の粉粒体の流動シミュレーション（相澤龍彦）
- 2.粉末の圧密成形シミュレーション（中川知和）
- 3.超高温金属間化合物のプラズマ溶解ガスアトマイズ技術（甲元宏明）
- 4.TiAl基金合金成形材の粉末冶金による製造技術（辻本徳蔵）
- 5.金属粉末の射出成形（三浦秀士）
- 6.最近のメカニカルアロイング技術（石原慶一）
- 7.高速遊星ミルによる準結晶とアモルファス合金の短時間生成（水谷宇一郎・金子貫太郎）

この「最新の粉末冶金技術講座」は、回を重ねましたが、参加者が極めて少なくなったことから10回で終了しました。毎回アップトゥデートなテーマを設定することが難しく、また、最新の話題に関してはいろいろな場所で講演が行われるため新鮮さがなくなっている等の問題がありました。

そこで、基礎に戻って新人教育を目的とする内容で、企業における新人教育に組み込みやすいように、日程（12月1日、2日を基本）を固定するという形で「新粉末冶金入門講座」が1993年にスタートしました。この講座は、昨年第24回となり極めて長期に亘って開催され、毎回大変多くの参加者を得て、新人教育に役立つ内容として評価を得ております。

昨年の第24回の参加者の皆様にアンケートをお願いし、この中で、講座の進め方、内容、そして今後の希望等の意見を載せております。今後、これらの意見を参考にさせて頂いて、より会員の皆様に役に立つ内容を提供していきたいと思っておりますので、多くの皆様に参加戴きますようお願い申し上げます。（高山 義弘）

